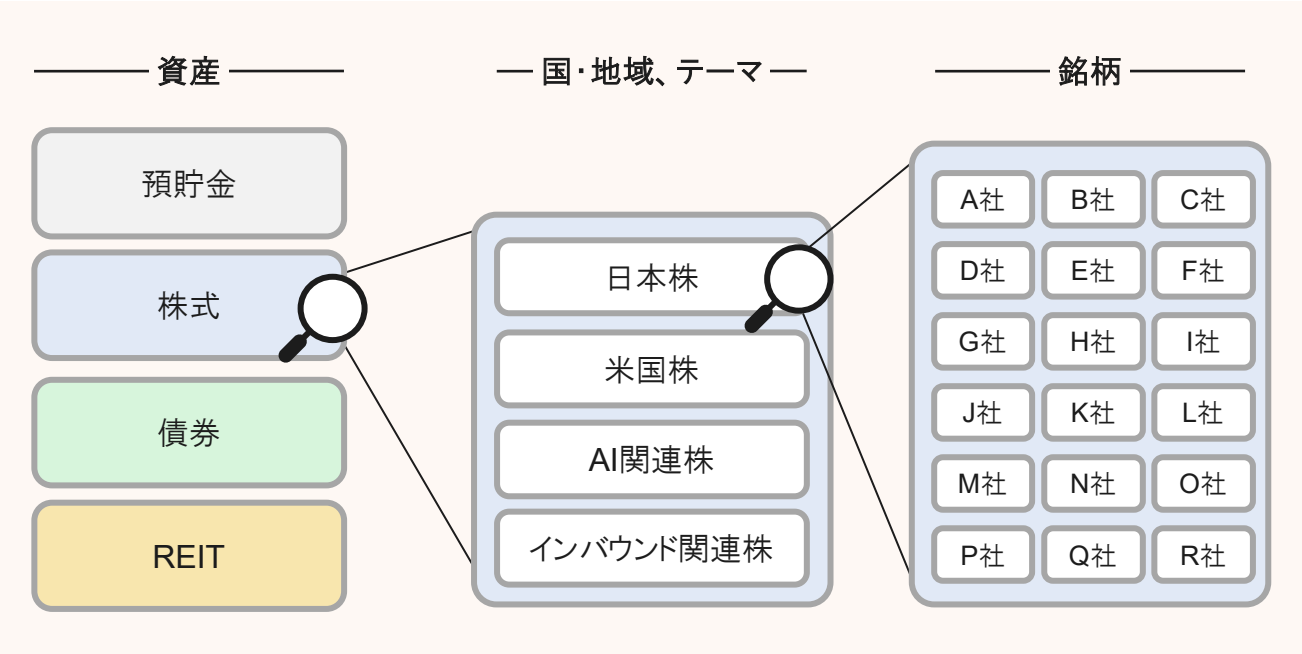
Vol 185 資産や国の分散とともに、意識しておきたい銘柄の分散

投資対象を多様化させることで個別銘柄の値動きの影響を減らし、全体のリスクを低減する「分散投資」は、資産運用の基本となる考え方です。投資信託を購入する際には、資産や国・地域、テーマなどの分散を意識して選んでいるという方も多いでしょう。その一方で、具体的に投資信託を選ぶ段階にある方などからは、「どういった銘柄にどれくらい投資しているのか？」といったお問い合わせをいただくことがあります。

そこで今回は、投資信託が組み入れている「銘柄」に注目し、その分散が運用成果にどう影響するのかについて触れたいと思います。投資信託の銘柄の分散なんてあまり気にしてこなかったという方も多いかもしれませんが、投資信託選びの幅を広げてくれるかもしれませんので是非ご参考にしてください。

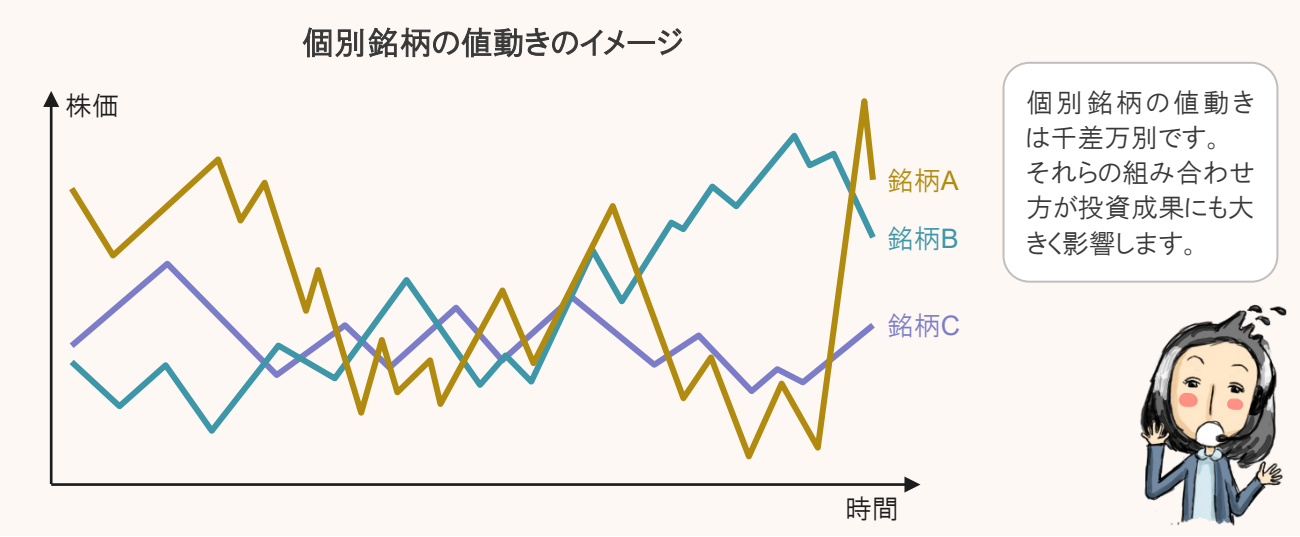


資産や国・地域、テーマに加えて、
どういった銘柄にどのように投資しているかが、
最終的な運用成果を大きく左右します。

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

銘柄毎の違いに注目するのが「銘柄の分散」

銘柄の分散とは、株式ファンドであれば、A社だけでなく、B社やC社の株式にも投資をして、ポートフォリオのリスクをコントロールしようとする投資方法のこと。例えば、株式は、一括りに「リスクが高いもの」と捉えられがちですが、事業内容や損益状況は企業ごとに異なります。その結果として、株価の値動きも千差万別になるわけですが、それらを上手く組み合わせれば全体のリスクを抑えることが期待できます。株式ファンドの場合、50～100銘柄程度を組み入れるものが多い印象ですが、10銘柄程度や数千銘柄以上を組み入れるものまで多種多様です。



投資信託によって銘柄分散の度合いはバラバラ

投資信託は、こうした値動きの異なる複数の銘柄を1本に束ねた金融商品なので、投資信託を1本持てば、それだけで複数の銘柄への分散投資が可能です。ただ、仮に資産や国・地域などが同じであっても、組み入れられる銘柄の数やその比率は、投資信託によって大きく異なっています。

様々な場面で分散の重要性が説かれることあり、銘柄数を絞り込んだ投資信託に対しては、好ましくないイメージをお持ちの方もいるかもしれませんが、「なぜ分散するのか？」という分散することの意味を正しく理解することは重要です。

弊社でもたくさんの投資信託を運用していますが、
数銘柄にしか投資していないものもあれば、
10,000を超える銘柄に投資するものもあります。

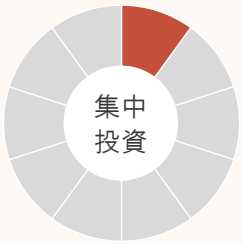
当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

分散投資と集中投資は対極の存在

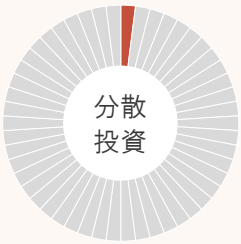
冒頭でお伝えした通り、「分散投資は投資の基本」であり、分散が重要視される理由は、一部の銘柄のマイナスが全体に影響を及ぼす影響を減らすリスク低減効果が期待できるところにあります。一方、分散を抑えた集中投資の場合は、期待されるリターンとリスクの双方が大きくなりやすいという特徴があります。

これは、分散投資と集中投資から期待できる効果が対極のものであることを意味していますが、分散度合いが運用成果にどのような影響を与えるかを知れば、投資信託選びの視点を増やすことができます。例えば、「リスクを許容できるなら、30～50銘柄程度、あるいはそれ以下に銘柄を絞り込んだ集中投資」「個別銘柄リスクを抑えるなら、100銘柄を超えるような幅広い分散投資」というのは、一つのアイデアになります。

集中投資と分散投資の相対的な違い



大きい	1銘柄当たりの構成比率	小さい
大きい	一部の銘柄が与える全体への影響	小さい
大きい	ポートフォリオ全体の値動き	小さい
大きい	市場全体の値動きとの違い	小さい



※上記は一般論であり、投資戦略や市場環境などによっては上記と異なる場合があります。

大切なのは「投資の目的」にあった選択

今回ご紹介した「銘柄」以外にも、資産や国・地域、テーマなど、様々な観点でその分散度合いを見ることは、ご自身のポートフォリオにおける偏りや不足、重複を発見する機会になると思います。また、バランスが良さそうに見えたとしても、それがご自身の意図したものになっているかは改めて確認してみることをお勧めします。

あまり注目されることのない投資信託における「銘柄の分散」ですが、これを機会にまずは保有されている投資信託のマンスリーレポートで、その組入銘柄をチェックしてみてはいかがでしょうか。

nikko am
コールセンター
0120-25-1404
営業時間　平日　9:00～17:00

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。